

平成22年度
協働実践事業

島根県NPO活動推進室

島根県における協働実践事業 採択事業の概要

年度	県事業名	テーマ	提案団体	行政担当所属	実施事業名	実施事業概要	県負担額
22	しまね協働実践事業	自由	島根県NPO連絡協議会	環境生活総務課	島根県内のNPOの情報発信と市町村との協働を推進する事業	NPO法人の運営上重要な課題である情報発信と市町村との協働をテーマに、幅広い世代への訴求力を持つ紙媒体を中心に情報発信を行うこと及び、市町村との協働を進めるためのきっかけとしてアイデア提案会等についての提案。 ・「島根のNPO読本」の製作・発行及び販売(翌年度以降の財源に) ・NPO読本の内容を地域ポータルサイト「島根いきいき広場」「だんだん」にリンク・連携 ・市町村協働アイデア提案会&交流会の開催(県内5カ所程度で実施)	2,000,000
22	しまね協働実践事業	自由	NPO法人 しまね歴史文化ネットワークもくもく	文化財課	石見銀山ブラッシュアッププロジェクト～総合アンケート調査と交流促進事業～	世界遺産の価値を実感しにくい石見銀山の神髄を観光案内に付加するため、調査及び周遊マップの作成、情報発信手法の改善を行う。 ・アンケート調査・文責、報告書作成 ・周遊マップパイロット版作成 ・従来の方法発信ツールやウェブサイトの改善点を提案 ・文化遺産NPOフォーラムの開催	2,000,000
22	しまね協働実践事業	自由	NPO法人 バリアフリー・シネマ&ライブ・ネットワーク	障がい福祉課	映画「ローマの休日」バリアフリー化プロジェクト事業	バリアフリー映画祭等に利用するため、著作権切れ映画のなかで名作「ローマの休日」に音声ガイド・字幕をつける事業を支援する。 ・映画「ローマの休日」バリアフリー製作(翻訳、台本製作、字幕製作、音声ガイド製作、吹替製作) ・バリアフリー上映会と座談会の実施 ・アンケートの実施及びDVD報告書作成	2,000,000
22	鳥取・島根広域連携協働事業	自由	彦名地区チビッツ環境パトロール隊 NPO法人 プロジェクトゆうあい	鳥取県西部総合事務所 島根県環境政策課	鳥取島根BDFネットワーク推進事業～地域油田を発掘せよ！～	山陰両県では、民間ベースで廃食油の回収、精製、BDF活用の事業が行われている。両県の団体、事業者のネットワークづくりを進め、県民に廃食油リサイクルの気運を高める。 ・鳥取島根BDFネットワーク会議の開催 ・先進地の視察 ・試験的な回収 ・新たな利用方法の開拓 ・小学校デモツアー	4,000,000
22	鳥取・島根広域連携協働事業	自由	NPO法人 賀露おやじの会 NPO法人 もりふれ倶楽部	鳥取県森林林業総室 島根県林業課	森と村の学校プロジェクト	山陰両県の喫緊の課題である森林整備と山村振興により、都市の再生につなげる。 ○山里聞き書き塾 ○森の健康診断 ○森の学校 ○流域再生調査 など	4,000,000
22	寄附者設定テーマ型事業	宍道湖のしじみ環境保全事業(宍道湖しじみを永遠に！イトハラプロジェクト)	NPO法人 斐伊川流域環境ネットワーク	環境政策課	宍道湖ヨシ再生プロジェクト・特別ヨシ植栽活動事業	ヨシがもつ水質浄化機能と水生動植物の保全機能に着目して竹ポットによるヨシ植栽活動を行う。 ・松江市大垣町宍道湖岸の一帯にイトハラプロジェクト特別植栽地を設置 ・ヨシ植え込みに必要な物品調達、参加賞学校児童とともに植え込み作業(10月初旬予定、参加予定小学校児童約700人) ・松江地区内の小学校においてヨシ植栽用竹ポットづくり学習会(総合学習)に使用する小冊子作成、配布 ・過去実績 参加校160校、参加数9,831人、植栽竹ポット10,267本、ヨシ茎総本数20,534本	450,000

島根県における協働実践事業 採択事業の概要

年度	県事業名	テーマ	提案団体	行政担当所属	実施事業名	実施事業概要	県負担額
22	地域社会雇用創出協働事業	自由	NPO法人 アンダンテ21	西部県民センター	高津川流域の連携に関するNPO参画事業	高津川流域に関する情報の収集・一元化などに人材を活用することにより、高津川の次世代への伝承を図る。 ・現在、高津川流域に関する団体やその活動内容、また行政が実施している事業が取りまとめられておらず、戦略的な展開ができていないため、高津川に関連した活動を行っている団体の情報やその団体が実施している活動などの情報を中心に収集する。 ・清流高津川流域連絡会議(幹事会)へ民間団体として参画し、同会議の一層の活性化を図る。	3,769,000
22	地域社会雇用創出協働事業	自由	NPO法人 まちづくりネットワーク島根	農業経営課	大庭空山地区の再生農地を利用した市民農園の開設事業	再生農地を利用した市民農園を開設・運営し、一般消費者の「農業」や「食」への理解の醸成を図る。 ・市民体験農園への貸借希望者の募集及び作物の植え付けと収穫(周辺の農家や農業法人と連携した収穫祭やイベントの開催) ・農業や食の専門家による植え付け研修や勉強会、子ども達への自然学習としての専門家による講習会、収穫した果実等を使った料理教室の開催	3,906,176
22	地域社会雇用創出協働事業	自由	NPO法人 おやこ劇場松江センター	青少年家庭課	市民による持続可能な「子育て応援地域ポータルサイト」構築プロジェクト	子育てを支援する地域情報ポータルサイトの構築などにより、子育てをサポートする地域情報の一元化などを図る。 ・子育てを支援するポータルサイトの構築 ・子育て支援団体・子育てサークルの情報発信スキルの向上 ・子育て情報発信ステーションの設置 ・地域全体で子育てすることの有用性を学ぶ講演会の開催	4,000,000
22	地域社会雇用創出協働事業	自由	NPO法人 緑と水の連絡会議	県央保健所	ほっとスペース「ゆきみ〜る」(青少年の居場所づくり)事業	青少年の居場所を整備し、地域活動への参加などを促すことにより、青少年一人一人の適性や能力の向上を図る。 ・青少年が昼間に利用しやすいスペースを整備し、ボランティア等各種イベントの情報提供、誘い出し、声かけなどの実施 ・通信教育等在籍生に対する単位取得に向けたスケジュール管理、アドバイス・声かけ等 ・中高生、若者就業者が使用できる会員制自習室の開設	4,000,000
22	地域社会雇用創出協働事業	自由	NPO法人 YCスタジオ	雇用政策課	困難を抱える若者に対する多様な就労(働き方)創出事業	チャレンジショップ・ギャラリーやカフェの運営、農業を通じ、中卒者や障がいのある方の勤労意欲の向上などを図る。 ・チャレンジショップでの販売、カフェでのランチや弁当の調理や配達等、土作り・種まき・苗作り等の農作業といった就労を通じ、自信をなくした若者などへの精神的なサポート、自信回復を行う。	3,983,090

H22年度「しまね協働実践事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

事業名	島根県内のNPOの情報発信と市町村との協働を推進する事業
実施団体	島根NPO連絡協議会
県担当課	環境生活総務課NPO活動推進室
事業の成果	<div data-bbox="316 517 485 560" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事業の目的</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人の運営上重要な課題である情報発信と市町村との協働をテーマに、幅広い世代への訴求力を持つ紙媒体を中心に情報発信を行うこと及び、市町村との協働を進めるためのきっかけとしてアイデア提案会等についての提案 <div data-bbox="316 725 485 768" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事業の内容</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「島根のNPO読本」の製作・発行及び販売（翌年度以降の財源に） ・ NPO読本の内容を地域ポータルサイト「島根いきいき広場」「だんだん」にリンク・連携 ・ 市町村協働アイデア提案会&交流会の開催（県内5カ所程度で実施） <div data-bbox="316 934 539 976" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目的の達成状況</div> <div data-bbox="580 934 1246 976" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <input checked="" type="radio"/> (A) 十分達成できた <input type="radio"/> B: 概ね達成できた <input type="radio"/> C: 不十分だった </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間をかけて、充実した冊子をつくることができたが、情報交換会に間にあわなかったのが残念 ・ 「NPO読本」の編集が遅れたため余裕をもって関係先にアピールすることができなかった。読本の完成をもって行うはずだった「NPOと市町村との情報交換会」では読本の予告しかなかった <div data-bbox="316 1220 469 1263" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">工夫した点</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全NPOにアンケートをとるなど、公平性に気を配った ・ 市町村への広報は県、NPOへの広報は連絡協議会と分担しながら、申込先は1箇所にして情報の擦れ違いがないようにした ・ 県内にあるすべてのNPO法人に対し事業を予告し、取材記事掲載希望の有無、取材行為の希望の有無を募った ・ 読本の完成は見なかったが、NPOと市町村との情報交換会は参加者に十分発言の機会を設けるように努めた <div data-bbox="316 1581 539 1624" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">反省点・改善点</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュール管理（もうすこし早く読本ができるはずだった） ・ 情報交換会開催の時期が議会と重なるなど、開催時期をもう少し考慮すべきだった ・ 読本の編集に参加した人が多かったということもあるが、十分に意思疎通を図ることができず、結果として、読本の完成が遅れた ・ 情報交換会への市町村の参加数が少なかった（6市町）

協働の効果

合宿研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・企画を十分話し合うことで冊子の内容が充実した
- ・企画内容が十分決まらない段階で採択されたこともあったが、NPO読本や情報交換会のイメージを深めることができた

中間振り返り研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・見通しは立てたが、その見通しどおりに進まなかった。多数の分担執筆により、統制がなかなかとれなかった
- ・NPO読本は当初の予定より相当遅れていたこともあり、翌年度以降につながる最終的な形を企図することができなかったが、多少は遅れを取り戻すきっかけになった

協働の実績と内容

- ・冊子の編集方針、交流会の企画をいっしょになって考えた
- ・取材執筆をNPO、県それぞれが分担して行った
- ・読本への内容盛り込み、編集方針、作業スケジュールについて月1回のスカイプ会議を一緒に行うことを元にした
- ・情報交換会の企画、実施についても双方の役割分担を明確にし、協調しながら実施した

協働効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・全NPOに対する声かけ、執筆依頼の徹底
- ・NPO団体の運営上の苦労や経緯を、NPO連絡協議会のメンバーはよく承知しており、そうしたことが本の編集や情報交換会の運営にも反映された。
- ・会合の運営手法や会議手法（例：スカイプ会議）、書籍の編集など多彩な人的ネットワークで事業を進めることが大いに参考になった

協働相手への要望事項

- ・読本の企画段階でのアイデア集約が十分でなかったと感じる
- ・情報交換会については、NPO相互のネットワークを生かして、もっと多くの団体を呼び込んでほしかった

協働に関する反省点・改善点

- ・実務上の組織力強化、団体内の連絡の徹底
- ・情報交換会において、時期的に市町の3月議会が開催される頃を選んでしまったために、市町の参加が少なかった。時期の設定も含め、NPOと市町村との連携がとれる態勢をさらに考慮すべきであった

市町村との協働

【A:市町村と協働した B:協働しなかった】

- ・交流会には、市町村によびかけ、NPOとの交流の場をもうけた
- ・情報交換会の参加を依頼したが、時期的は配慮が足りなかったために、市町の参加が少なかった

<p>事業の継続</p>	<p>事業成果の活用 (A)活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍の流通を通じてNPOの理解を深める ・書籍の配布により県内市町村、各都道府県へ島根県のNPO活動についてアピールする ・書籍内のデータやこの取材等から得られたネットワークを活用できる <p>事業の継続状況 (A)継続する予定 B:継続しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村とNPOの事業マッチングに関する取り組み ・新しい公共支援事業を利用して、NPOと市町村との情報交換会を実施 <p>協働による発展 (A)協働により発展できる B:協働の必要はない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOと市町村との協働を進めていくために、両者の交流会を通して相互のおかれた立場や構想を理解し、事業アイデアを具体化して、地域課題を解決していくことができる
<p>制度の改善</p>	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村が資金を供出する仕組みが必要。島根県市町村総合事務組合という組織は、市町村の拠出する資金で運営されている団体で、地域振興を事業の柱のひとつとしているが、このような組織のお金をうまく使えないか ・事業内容にもよるが、地域課題とは住民生活に身近な市町村や小地域に多く存在するものであり、企画段階から地域課題を認識してもらうことが必要。さらに協働事業の主体を県から市町村に移行させるために、新しい公共支援事業の実施がきっかけとなると考える <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労務費の上限8,120円は安すぎ。行政と対等でない ・事業の初期提案をNPO側が受け持ち、行政側が対応するという発端部分ではあるが、採択にあたって公開審査会に臨むときには対等の立場となる。初発研修で内容や目標、スケジュールについて確認しあい、実施途中でも常時意見交換をする。中間研修で再調整をして事業の最終段階に入っていく。最後にこうしてふり返り、事業報告会の場に登壇することは、一連の流れとして協働推進という意味で大いに意義がある
<p>協働の推進</p>	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より積極的な情報開示 ・事業の途中経過をホームページやブログ等でオープンに開示することによって、外部からの信頼性も増し、行政側の意識も変えていくことができるのではないかと（行政側の事情についても斟酌しておくことは必要） ・法令や規定を守るという視点も大切であり、常に適正な業務や経費執行をしていく必要がある。一方で、行政側は過剰なコンプライアンス対応をすることがあるので（世間的評判を気にしすぎるなど）、そうした面はNPO側の突破力で意識を変えていってほしい <p>県がする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOに対して、生身で接していくこと ・法令や論理など守るべきところはしっかりと遵守した上で、NPO側の発想力と実行力を認め、行政側が得意とする分野（例：文書作成、市町村や公的団体とのつながり、行政のブランド力）に関しては積極的な関与をしていくべきである

H22年度「しまね協働実践事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

事業名	石見銀山ブラッシュアッププロジェクト～総合アンケート調査と交流促進事業～
実施団体	特定非営利活動法人しまね歴史文化ネットワークもくもく
県担当課	文化財課世界遺産室
事業の成果	<div data-bbox="316 517 485 555" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事業の目的</div> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の価値を実感しにくい石見銀山の神髓を観光案内に付加するため、調査及び周遊マップの作成、情報発信手法の改善を行う <div data-bbox="316 689 485 728" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事業の内容</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査・文責、報告書作成 ・周遊マップパイロット版作成 ・従来の方法発信ツールやウェブサイトの改善点を提案 ・文化遺産NPOフォーラムの開催 <div data-bbox="316 936 539 974" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目的の達成状況</div> <div data-bbox="582 936 1244 974" style="display: inline-block;">【A:十分達成できた <input checked="" type="radio"/> B:概ね達成できた C:不十分だった】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの対面調査の調査地点に偏りがあった ・フォーラムへの参加団体が少なかった ・調査については、概ね良好な結果が得られているが、そのアウトプットに関する取組みや、実施者(申請者)自身の努力による成果は限定されている(高専など後から追加された外部協力が大きい)感は否めない ・事業全体が当初予定していた内容からは大きく変更されており、その変更が当初計画の甘さを受けたものであることから、反省点は大きい <div data-bbox="316 1294 469 1332" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">工夫した点</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ調査において、調査対象、設問、調査目的などを吟味し、質量ともにほぼ期待通りの成果を得た ・調査を行い世界遺産地域のブラッシュアップを行う事を目的とした事業のため、次年度において各所で調査成果の発表を行うための下地づくりなどを行い、結果普及に努めている <div data-bbox="316 1541 539 1579" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">反省点・改善点</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果を、広く公表する機会をもちたかった ・当初計画の甘さは否めない ・高専による調査が加わることで飛躍的に成果が向上しているが、当初計画の段階で内容の精査が進んでおらず、改善点は大きい ・最大の課題はマンパワーに対する事業規模のマッチングの悪さで、申請団体および協働先部局で要するマンパワーのことなどは、申請時に明確化しておくべきだった

協働の効果

合宿研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・事業推進にあたってのさまざまな課題について共有できた
- ・大きな成果があったかは難しいが(参加者に協力的な空気もあり、研修の在り方も問われたので)、川北さんのコメントは一つ一つに大きな意味があるので良かった
- ・その場合合わせで、事業の課題整理がおぼつかない我々が、その場を使い切れていないのが一番の問題

中間振り返り研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・まだ事業の中途だったので、明確な見通しは不十分だったが、事業成果の活かし方までも視野に協議できた
- ・実際にすべきこと、ということ以上に、我々がこの事業で目指すことというのが共有できている実感はなかった。もっとも協働相手先として、もっとも行政が陥ってはいけない処だったように思い、恥じ入るところ

協働の実績と内容

- ・関係機関への呼びかけ・折衝
- ・アンケート調査の準備、検証
- ・成果の発表
- ・これまでにない、直接来訪客／市民／未訪の市場評価という世界遺産を取り巻く3者の調査を一同に出来たことは、大きな事だと思う。これを役割分担して行えていたこと、一同に情報を集約できたことは非常に意味のあること

協働効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・関係機関との協議、事業の告知などはもとより、ウェブ調査にあたっては、県の担当者の経験が大いに活かされた
- ・協働によって発見された関係性や、フォーラムにおける民間活動者の石見銀山訪問などは、協働の効果と言える。ただし、他の地域との交流のような流れで、より広範の連携を目指すにはビジョン構築の段階から取組むべきことは多かつたのではないかと思われる

協働相手への要望事項

- ・マンパワーに応じた、適切な事業内容の構築
- ・協働による行政に担って欲しい機能の明確化

協働に関する反省点・改善点

- ・団体側の意図を汲みながら、事業推進に係る行政の立ち位置を模索することが十分に出来ず、結果的に、事業に対する行政が関与することでの内容の重層化などを成せず、中途半端な事業になったしまったと思う

市町村との協働

【A:市町村と協働した B:協働しなかった】

- ・フォーラム開催にあたって、告知、会場の手配、集客などの協力を得た

<p>事業の継続</p>	<p>事業成果の活用 (A)活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果はある時点のもっとも有効な市場サンプルなので、きっちりアナライズして、地元の各所に戻し、この結果を用いた勉強会やワークショップなどを、すでに計画している <p>事業の継続状況 【A:継続する予定 (B)継続しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査は継続的にすべきだが、協働の形で効果がでるかはわからないので <p>協働による発展 (A)協働により発展できる B:協働の必要はない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政側の担当者の熱意によるところも大きいですが、中期スパンで計画、実行できるシステムができれば、大きな成果が期待できる ・民意に基づく活動がない限り、世界遺産エリアにおいてこの先の展開はあり得ない ・官民の共感、適切なロードマップ、運転スキルの向上、楽しさの追求など、行政の枠組みを爽やかに超えられる点は大きい
<p>制度の改善</p>	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOと担当部署、担当者との十分な協議の機会をもち、着手から効果検証まで長期的な実施体制をもつことで、双方の事業責任と成果の評価がのこされるようにすべき。「協働実践」が、まだ定着していない ・事業採択後に、その内容に対して適切な部署と調整を図るのが、ベターかと思われる（もちろん、企画段階で市町村の果たすべき役割については整理が済まされていることが必要） <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の職員が、その枠を越えたチャレンジが出来ること（行政事業では越えられないおもしろさなど、経験する数少ない機会だと思う、在職しながらのインターンシップとしての要素も感じる）
<p>協働の推進</p>	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政のシステムをもう少し理解すべき ・事業の効果があまり期待できない事業を無理に実施することはない ・行政担当部署の事情を汲みながら、したいことをより社会貢献度の高い形で出せることでしょうか。どうしても“したいこと”が自己中心的なイメージもあり（他団体を見ている）、それが故に行政がどんどんお客さんになっていく印象は否めない。事業の有効性を持って、初めて組むに値すると行政に思わせる企画力が必要かと思う <p>県がする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOはもとより、地域の課題を行政内部で横断的に認識する仕組みが必要ではないか ・それらNPOの提案力の向上に伴い、職員の協働スキルの向上は必須だと思う（企画力、提案力、民意を反映するための経験値の向上） ・協働そのものが、スキル向上に資する部分も大きく、より積極的にOJTの場として定義付けする必要も感じる

H22年度「しまね協働実践事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

<p>事業名</p>	<p>映画「ローマの休日」バリアフリー化プロジェクト事業</p>
<p>実施団体</p>	<p>特定非営利活動法人バリアフリー・シネマ&ライフ・ネットワーク</p>
<p>県担当課</p>	<p>障がい福祉課</p>
<p>事業の成果</p>	<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー映画祭等に利用するため、著作権切れ映画のなかで名作「ローマの休日」に音声ガイド、字幕をつける事業を支援する <p>事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画「ローマの休日」バリアフリー製作（翻訳、台本製作、字幕製作、音声ガイド製作、吹替製作） ・バリアフリー上映会と座談会の実施 ・アンケートの実施及びDVD報告書作成 <p>目的の達成状況 【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳から声優吹替、音声ガイドの付加、録音編集等映画を制作する過程において、多くの県民の方に協力していただきレベルの高いバリアフリー映画が出来上がった ・県内各地で上映することにより、多くの方にバリアフリー映画を鑑賞していただき、障がいのあるなしに関わらずだれもが楽しめる映画として理解していただけたと思う <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声優等の制作スタッフ募集において、県のHPを活用することにより広く公募できた ・サンレイクを研修会場とし、泊付きで短期集中型で効率よくスタッフのチームワークができた <p>反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習会やイベントなど、土日の業務が多かったので可能な限り、複数の職員で対応する等の調整ができるとよかった

<p>協働の効果</p>	<p>合宿研修の効果 <input checked="" type="radio"/>A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画を作成することにより、相手との意思疎通ができよかった ・声優練習の会場をサンレイクに決定することができよかった <p>中間振り返り研修の効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった <input checked="" type="radio"/>C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の大半が終わってからの時期になっており、研修の時期が遅すぎたように思う。できれば9月中旬までに実施してほしかった ・事業の中核であった声優練習会、収録現場などに足を運んでいただき、その中で現状を理解していただいて、講師の方に具体的なアドバイスをもらえるような視察をしていただければ良かったと思う <p>協働の実績と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係部署への協力依頼や連絡調整（NPOと一緒に伺ったり、文書を作成し理解を得た） ・声優オーディションのスタッフとして加わった ・ちょい役声優として、県職員も数名加わった <p>協働効果 <input checked="" type="radio"/>A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独では、制作技術等の専門知識がないため事業達成はできなかった ・相手方NPOは、過去に複数の映画を制作し、技術はもとより制作手順、情報発信等効率的なノウハウを所持しているので、常に事業全体をリードし計画どおり実行できた <p>協働相手への要望事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業全体を通して、特定の人物に大変な負担がかかっていたように思われるので、スタッフの充実を望む <p>協働に関する反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画上映会の宣伝について、部内や部内の関係機関にも広げられるとよかった <p>市町村との協働 【A:市町村と協働した <input checked="" type="radio"/>B:協働しなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に必要と認めなかった
<p>事業の継続</p>	<p>事業成果の活用 <input checked="" type="radio"/>A:活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内各地での上映会を開催することでバリアフリー映画についての理解はもとよりだれもが映画を楽しめることにより人々が元気になり、地域の活性化につながる ・今回の事業で得たスタッフと次回作の映画作りが可能となる <p>事業の継続状況 【A:継続する予定 <input checked="" type="radio"/>B:継続しない】</p> <p>協働による発展 <input checked="" type="radio"/>A:協働により発展できる B:協働の必要はない】</p>

<p>制度の改善</p>	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村の参画が必要と思われる事業については、企画段階から、お互いの意思疎通を図るべきである <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業採択の時から関わりをもつと思われる課の出席を求めるようにする
<p>協働の推進</p>	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでどおり、自由で大胆な発想の事業を構築してほしい <p>県がする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> 新年度に入ってから担当課の決定ではなく、当該年度中に次年度の事業内容と担当課について決定しないと、的確な担当者の選定が出来ない

H22年度「鳥取・島根広域連携協働事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

事業名	鳥取島根BDFネットワーク推進事業～地域油田を発掘せよ！～
実施団体	彦名地区チビッ子環境パトロール隊 特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい
県担当課	鳥取県西部総合事務所 島根県環境政策課
事業の成果	<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 山陰両県では、民間ベースで廃食油の回収、精製、BDF活用の事業が行われている。両県の団体、事業者のネットワークづくりを進め、県民に廃食油リサイクルの気運を高める <p>事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取島根BDFネットワーク会議の開催 先進地の視察 試験的な回収 新たな利用方法の開拓 小学校デモツアー <p>目的の達成状況 【A:十分達成できた <input checked="" type="radio"/> B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul style="list-style-type: none"> BDF供給先の開拓は、米子は進んだが、松江は十分な成果が得られなかった 小学生を対象としたBDFの啓発活動は、小学生にとって興味深い題材（実際にBDFで世界を旅をした経験談）で、効果的であった <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国各地のBDF事業者とのネットワークをはかること <p>反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 松江でのBDF供給先開拓は、松江市という大口をねらったが、あまり十分な成果がなかった。個別の事業者への折衝に力点をおくべきだった
協働の効果	<p>合宿研修の効果 【A:十分効果があった <input checked="" type="radio"/> B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分話し合うことで視察や企画が充実した 事業計画の変更を行うには、良い機会であった <p>中間振り返り研修の効果 【A:十分効果があった <input checked="" type="radio"/> B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね、予定通りに進めることができた 今後何をすべきか、何が必要かの確認ができた <p>協働の実績と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> BDFネットワークを構築する際に、県から全市町村に声をかけてもらい、BDF事業所を洗い出した BDFネットワークの開催や、小学生を対象とした普及啓発活動

	<p>協働効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B D F ネットワーク会議がスムーズに進んだ ・ 県の期待する効果はごみの減量化としての普及啓発が目的であるが、団体の目的は B D F の販路の確保であり、この目的の乖離が事業内容の乖離につながった <p>協働相手への要望事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B D F の活用推進について、県の立場から具体的なアプローチがほしかった（県所有車両への活用など） ・ 相談、連絡が少ない <p>協働に関する反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし <p>市町村との協働 【A:市町村と協働した B:協働しなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市との間でプロジェクトゆうあいが推進する B D F の連携方策を何度も話し合った
事業の継続	<p>事業成果の活用 【A:活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B D F の普及拡大 <p>事業の継続状況 【A:継続する予定 B:継続しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B D F ネットワーク会議の継続、島根での B D F 拡大 <p>協働による発展 【A:協働により発展できる B:協働の必要はない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市との連携（廃食油の回収、B D F の利用など）
制度の改善	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル都市松江市としてのプライドを持って、より具体的な提案をもらいたい <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取と、島根の連携をフルに生かすことができた
協働の推進	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より積極的な情報開示 <p>県がする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPOに対して、生身で接していくこと ・ NPOで働いている職員の立場になって考えること ・ 本当に協働する事業かどうかを見極めたうえで協働しなければ、県が単なるスポンサーになるのではないか

H22年度「鳥取・島根広域連携協働事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

<p>事業名</p>	<p>鳥取島根BDFネットワーク推進事業～地域油田を発掘せよ！～</p>
<p>実施団体</p>	<p>特定非営利活動法人賀露おやじの会 特定非営利活動法人もりふれ倶楽部</p>
<p>県担当課</p>	<p>鳥取県森林林業総室 島根県林業課</p>
<p>事業の成果</p>	<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陰両県の喫緊の課題である森林整備と山村振興により、都市の再生につなげる <p>事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山里聞き書き塾 ・森の健康診断 ・森の学校 ・流域再生調査 など <p>目的の達成状況 【A:十分達成できた <input checked="" type="radio"/> B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森の健康診断」、「山里の聞き書き」等先進的なノウハウを学び、実際に実践することができた。また、事業後にもつながった ・鳥取県側ほどの進捗は見込めなかったが、鳥取県の情報を得ながら各種作業を行い、「人工林は手入れし続けなければいけない」という事実に住民が気づく機会づくりとなったことは、事業目的として概ね達成できた <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>協働の効果</p>	<p>合宿研修の効果 【A:十分効果があった <input checked="" type="radio"/> B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合宿研修により、事業の全体像、日程、講師等ほぼ固めることができた ・協働相手との意志疎通はできたが、宿泊の必要性については疑問 <p>中間振り返り研修の効果 【A:十分効果があった <input checked="" type="radio"/> B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取側では、ほぼ終了していたため、計画の修正点等、ほぼ明確にできた ・「聞き書き」をいつにするかなど年度末に向けての詳細な日程の再確認ができた <p>協働の実績と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供・広報・アンケート等の実施と分析・渉外等全般にわたって連携出来た ・各作業の具体的な準備、講師との日程調整 ・「森の健康診断」など実際の作業、飯南町や森林組合等関係機関との打ち合わせに参加町民及び木材需要者へのアンケートを協働で企画・実施

	<p>協働効果 <input checked="" type="radio"/>【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市・町等との交渉の入り口がスムーズ ・アンケート等の協力も得られやすかった ・NPO法人の行動力と行政による調整力が相乗効果をもたらしたといえる <p>協働相手への要望事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>協働に関する反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業担当課による委託あるいは補助事業というスタイルに違和感がある（協働に参加する職員が属する課が委託業務の完了検査する行為） ・活動エリアが決まっているならば地元担当行政のほうがよりフットワークのよい対応がとれた <p>市町村との協働 <input checked="" type="radio"/>【A:市町村と協働した B:協働しなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施、イベントの実施に関する協力 ・町民アンケートや森の健康診断、関係機関との連携についても調整に協力いただいたり、互いのアイデア出しなど、有意義な協働ができた
事業の継続	<p>事業成果の活用 <input checked="" type="radio"/>【A:活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノウハウが取得できたので、十分な活用ができる ・森の健康診断という手法を覚えた地元リーダーが、新たな講師となり教え子を増やしていく予定 ・木質バイオマスの利用については、引き続き地元にも協力を求める <p>事業の継続状況 <input checked="" type="radio"/>【A:継続する予定 B:継続しない】</p> <p>協働による発展 <input checked="" type="radio"/>【A:協働により発展できる B:協働の必要はない】</p>
制度の改善	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県というよりは地元市町村が協働相手となったほうが地元密着の活動となると思う <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県担当は全県の取組でなければ県庁ではなく事務所職員が参画するほうが効率がよい ・宿泊までは不要 ・事業課により委託または補助には違和感が残る
協働の推進	<p>NPOがする必要があること</p> <p>県がする必要があること</p>

H22年度「寄附者設定テーマ型事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

<p>事業名</p>	<p>【宍道湖のしじみ環境保全事業（宍道湖しじみを永遠に！イトハラプロジェクト）】 宍道湖ヨシ再生プロジェクト・特別ヨシ植栽活動事業</p>
<p>実施団体</p>	<p>特定非営利活動法人斐伊川流域環境ネットワーク</p>
<p>県担当課</p>	<p>環境政策課</p>
<p>事業の成果</p>	<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシがもつ水質浄化機能と水生動植物の保全機能に着目して竹ポットによるヨシ植栽活動を行う <p>事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江市大垣町宍道湖岸の一地带にイトハラプロジェクト特別植栽地を設置 ・ヨシ植え込みに必要な物品調達、参加賞学校児童とともに植え込み作業（10月初旬予定、参加予定小学校児童約700人） ・松江地区内の小学校においてヨシ植栽用竹ポットづくり学習会（総合学習）に使用する小冊子作成、配布 <p>目的の達成状況 【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画通りに事業推進が行えた <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ特別植栽地を設け、寄附者のテーマ設定趣旨を具現化した ・学習会で700名の児童に寄附者のテーマ設定趣旨を伝え、寄附者名の入った小冊子を提供した <p>反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>協働の効果</p>	<p>合宿研修の効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートナーとの意思疎通が図られ、信頼関係を築くことができた <p>中間振り返り研修の効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <p>協働の実績と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関への呼びかけ・折衝 ・アンケート調査の準備、検証 ・成果の発表 ・これまでにない、直接来訪客／市民／未訪の市場評価という世界遺産を取り巻く3者の調査を一同に出来たことは、大きな事だと思う。これを役割分担して行っていたこと、一同に情報を集約できたことは非常に意味のあること

	<p>協働効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託契約仕様書の作成について十分な協議を行い、ロードマップを作成、それに沿って事業推進を行った <p>協働相手への要望事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>協働に関する反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>市町村との協働 【A:市町村と協働した B:協働しなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ植栽竹ポットづくり体験学習会の補助指導員 ・ヨシ植栽イベントの運営協力
事業の継続	<p>事業成果の活用 【A:活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果はある時点のもっとも有効な市場サンプルなので、きっちりアナライズして、地元の各所に戻し、この結果を用いた勉強会やワークショップなどを、すでに計画している <p>事業の継続状況 【A:継続する予定 B:継続しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査は継続的にすべきだが、協働の形で効果がでるかはわからないので <p>協働による発展 【A:協働により発展できる B:協働の必要はない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源（宍道湖水環境）を保全する活動がより広範な地域に浸透させる ・施策のコアになると思われる宍道湖・中海の水環境の保全に係る参画者の関心を高め実践する過程を充実させることができ、確実に地域デザインを描くことができる
制度の改善	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決への共通認識の場づくり ・地域資源(ポテンシャル)・課題の抽出過程を共有しながらロードマップをつくる <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業の成果について知事等へのプレゼン、県民投票等による表彰制度を創設してみてはどうか
協働の推進	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の精度や信頼性を高め、持続可能な事業環境を整備すること ・NPOの特性を生かしたネットワークづくり、情報の発信・共有を徹底

県がする必要があること

- ・地域社会の課題や公共サービスは、第三セクター（市民）の参画なくしては維持できないことを意識し、その解決方法（手段）としてNPOとの協働を模索する積極的な姿勢が必要
- ・県の財政・組織人員体制又は自治のパラダイムシフトを視野にいれ、ここは思い切って、1課1協働を目指してみてはどうか（田舎の自治体だからこそういったことができるかも、結果もろもろの要素が反映し島根県のプライマリーバランスが健全化すると思います）

H22年度「地域社会雇用創出協働事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

事業名	高津川流域の連携に関するNPO参画事業
実施団体	特定非営利活動法人アンダンテ21
県担当課	西部県民センター
事業の成果	<p data-bbox="316 517 485 555">事業の目的</p> <ul data-bbox="323 577 1469 645" style="list-style-type: none"> ・高津川流域に関する情報の収集・一元化などに人材を活用することにより、高津川の次世代への伝承を図る <p data-bbox="316 689 485 728">事業の内容</p> <ul data-bbox="323 750 1469 936" style="list-style-type: none"> ・現在、高津川流域に関する団体やその活動内容、また行政が実施している事業が取りまとめられておらず、戦略的な展開ができていないため、高津川に関連した活動を行っている団体の情報やその団体が実施している活動などの情報を中心に収集する ・清流高津川流域連絡会議（幹事会）へ民間団体として参画し、同会議の一層の活性化を図る <p data-bbox="316 981 1246 1019">目的の達成状況 【A:十分達成できた <input checked="" type="radio"/> B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul data-bbox="323 1041 1469 1182" style="list-style-type: none"> ・益田地区広域市町村圏事務組合との協働において、会議開催が少なかったため、民間と行政が一体となった取組の検討が十分にできなかった ・情報収集については目標どおり達成できたが、清流高津川流域連絡会議への参画という点では、その事務局である益田地区広域市町村圏事務組合との連携が不十分であった <p data-bbox="316 1227 469 1265">工夫した点</p> <ul data-bbox="323 1288 1469 1429" style="list-style-type: none"> ・高津川に関連した活動を行っている団体の情報収集については、生の声を聴くために調査シートを配布し記入頂くのではなく、現地取材の形で行った ・益田地区広域市町村圏事務組合との連携を深めるため、弊法人のイベントへスタッフとして参加して頂き協働の場を広げた <p data-bbox="316 1473 539 1512">反省点・改善点</p> <ul data-bbox="323 1534 1469 1832" style="list-style-type: none"> ・当初、「高津川に関連した活動」に拘っていたため取材対象が小さくなっていた。早い段階で「高津川流域で活動」する団体へ範囲を広げていけば、多岐にわたる団体の情報収集ができたと思われる ・益田地区広域市町村圏事務組合は、介護福祉、広域消防などの業務を持っており多忙であった。これらの事務方にも協力していれば、企画振興への活動がもっと進んだと思われる ・事業実施に当たって、県と受託者との役割分担は十分できていたが、受託者と関係団体との役割分担、関わりが明確化されていなかったことから、県と関係団体との調整が必要であった

協働の効果

合宿研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・最初に県の担当者と信頼関係が築けたことで、その後の打ち合わせや相談などの内容がこまやかなところまで実施することができた
- ・事業の方向性、考え方などが共有でき進めやすかった
- ・県、受託者の役割分担や、双方が目指す方向性などが再確認できた

中間振り返り研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・収集した団体の情報の取り扱いについて議論し、マップ形式でホームページ上に掲載することとした(より効果的な情報発信方法の検討については継続検討課題)
- ・広域との協働について議論し、方向性や着地点の概要を決めた
- ・中間振り返り研修までに随時業務の進捗状況などは確認していたが、改めて研修を実施することでその再確認ができたことや、今後の見通し、課題などが明らかになった

協働の実績と内容

- ・事業活動の方向性や成果に対する客観的な意見
- ・清流高津川流域連絡会議運営における連携
- ・高津川流域ネットワーク学習会開催での連携
- ・受託者は具体的な情報収集を実施。県は市町との関係団体と受託者を繋げる役割

協働効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・お互いのネットワークを活用して、多分野の人と交流でき広範囲の情報が得られた。
- ・客観的な目で情報を捉えることができた
- ・受託者はNPO法人としてすでに高津川流域で幅広く活動していたことから、そのノウハウを活かすことにより民間活動団体との連携がスムーズに行えた

協働相手への要望事項

- ・単年事業ではなく、複数年事業の形態でやりたかった

協働に関する反省点・改善点

- ・1市2町、民間が参加した高津川流域ネットワーク学習会は、流域の住民が議論するいい企画となった。1回ではなく複数回企画していれば、もっと厚みのあるものになったと思われる
- ・今回、地域振興の担当グループが県の関係機関として協働したが、農林水産部などとの連携も必要であったと考えられることから、県の関係機関として複数の課等が連携することも想定する必要がある

市町村との協働

【A:市町村と協働した B:協働しなかった】

- ・綺羅星委員会、清流高津川流域連絡会議幹事会への参画
- ・平成22年度第1回清流高津川流域連絡会議用資料作成
- ・第3次益田地区ふるさと市町村圏計画作成
- ・事業実施に当たって、協働ではなく情報提供を依頼した

<p>事業の継続</p>	<p>事業成果の活用 【A:活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した団体の情報は、ホームページ上で自由に閲覧でき誰でも利用できる ・これまで高津川流域で活動している団体の情報を一括して収集した実績がなかったことから、今後の田舎ツーリズムの推進や、地域資源を活用した観光などに活用できる <p>事業の継続状況 【A:継続する予定 B:継続しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清流高津川流域連絡会議の運営に関し、広域を含めた協働を行う。財源不要。 <p>協働による発展 【A:協働により発展できる B:協働の必要はない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高津川、益田川健康診断（流域住民による一斉調査で川への関心を深める） ・高津川、錦川ジオパーク申請（ジオパーク認定を取得することで地域活性化を図る） ・県とNPOとの協働ではなく、市町とNPOとの協働を進めることで、高津川流域で行われている様々な活動の効果をより高めることができると考える
<p>制度の改善</p>	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民と一体となって地域を活性化する主導的な立場で企画段階から参画してほしい ・NPO法人、特にまちづくりや環境保護に取り組んでいる団体については、自主財源の確保が最大の課題。市町村には企画段階から事業に参画してもらい、当該年度の事業遂行のみではなく、NPO法人への寄付を促進させる取り組みなども実施し、地域で自立できる体制を作ることが求められる <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良かった点としては、県の思いが伝わってくる、グローバルな視点からの情報が得られる ・残された課題としては、報告会が常に島根東部で開催されること ・県とNPO法人等が直接繋がり、それらの連携は強化されたが、市町村との関わりが薄かった印象。今後は市町村も含めた取り組みを進める必要がある。（市町村担当職員の意識改革も含めて）
<p>協働の推進</p>	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、市町村では実施できないような専門性の高い事業、新たな公益性や潜在化した公益性を発見する事業の継続的企画・提案 ・県の人的ネットワークの活用 ・協働を進めるためにも、NPO法人としての組織体制、自主財源の確保が重要。そのため、通常の活動に加えて法人の維持を行うための方策も考えていく必要がある <p>県がする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業展開する地域の実情の把握 ・県民参加型の事業を生む風土づくり ・県との協働も必要ではあるが、地域に密着した活動を展開していくためには、市町村との協働が重要であることから、県としては市町村との連携や市町村の意識改革を重点的に実施していく必要があると考える

H22年度「地域社会雇用創出協働事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

事業名	大庭空山地区の再生農地を利用した市民農園の開設事業
実施団体	特定非営利活動法人まちづくりネットワーク島根
県担当課	農業経営課
事業の成果	<p data-bbox="316 517 485 555">事業の目的</p> <ul data-bbox="323 577 1474 647" style="list-style-type: none"> 再生農地を利用した市民農園を開設・運営し、一般消費者の「農業」や「食」への理解の醸成を図る <p data-bbox="316 689 485 728">事業の内容</p> <ul data-bbox="323 750 1474 898" style="list-style-type: none"> 市民体験農園への貸借希望者の募集及び作物の植え付けと収穫（周辺の農家や農業法人と連携した収穫祭やイベントの開催） 農業や食の専門家による植え付け研修や勉強会、子ども達への自然学習としての専門家による講習会、収穫した果実等を使った料理教室の開催 <p data-bbox="316 940 1246 978">目的の達成状況 【A:十分達成できた <input checked="" type="radio"/> B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul data-bbox="323 1001 1474 1220" style="list-style-type: none"> 当年度目標30区画に対し29区画の利用契約がとれ満足した（初年度とはいえ、30区画以上の申し込みがあると想定していたが、徐々に申し込みされ、次年度の利用促進に力を注がなくてはならない） NPO法人との協働による活動により、農業者以外の一般市民に対して農業・農地への理解を深めることができた 再生農地の有効利用の観点から、市民農園の運営が有効である点について確認できた <p data-bbox="316 1263 469 1301">工夫した点</p> <ul data-bbox="323 1323 1474 1543" style="list-style-type: none"> 既存の市民農園とのグレードに差があり、一時的に不評を受けた。そこで、毎月のイベント内容を素人にも良くわかる内容とし、評価を受けた（基本的な土づくり、作物の特徴、作物別植付方法&管理方法、収穫適期、保存方法、有機栽培作物と慣行栽培作物の食味の違い等について詳しく専門講師より後援していただいた） イベントの際に、一般の方でも分かるような内容で、栽培講習会を開催したことが功を奏し、農園運営に関心を持ってもらうことにつながった <p data-bbox="316 1585 539 1624">反省点・改善点</p> <ul data-bbox="323 1646 1474 1753" style="list-style-type: none"> トイレ、倉庫の設置に向け農地転用の諸手続きをすればよかった。（申請後1年必要、当年度の計画であったため問題に突き当たってから発覚した。） 企画段階から、市の参画を求める必要があった

<p>協働の効果</p>	<p>合宿研修の効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営のパターンが良くわかった ・報告の仕方が理解できた ・時間をかけて意見交換をおこなうことで、相互の確認が不十分だった事項が見つかった <p>中間振り返り研修の効果 (A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告、収支の整理を早期からはじめられた ・中間点までの進捗を振り返ることで、事業終了までの整理ができた <p>協働の実績と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントには毎回参加いただき、参加者とともに情報の共有を図ることが出来た ・諸手続きのアドバイスを受け、スムーズな事業運営が出来た ・イベント講師等の斡旋助言をいただき計画が安心して進行できた ・イベント参加により運営内容の広報を実施 ・NPO法人と市との当該農地の利用審査及び協定締結に向け、県からも説明に加わる <p>協働効果 (A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折衝時点の信頼度が高く、進行がスムーズに出来た ・市民参加によるイベント開催は、住民目線にたった内容で分かりやすく、参加者にも好評だった。行政のみでは困難と感じる <p>協働相手への要望事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の農園運営を継続していただきたい <p>協働に関する反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画段階から市の参画があれば、さらにスムーズな運営が実現できたと感じる <p>市町村との協働 (A:市町村と協働した B:協働しなかった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画時点が県であれば終始県と協働するべきとの評価であったようで特に協力を求めなかった ・最終的に、市担当部署の参画理解までは得られなかった
<p>事業の継続</p>	<p>事業成果の活用 (A:活用される B:活用されない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定区画の貸し出しを行い、市民に親しまれる市民農園として充実を図る（他のエリアでも出来るよう進める発信を行う） ・耕作放棄地の優良な解消事例として、農業関係者への研修会等の際にも今回の事例を紹介していきたい <p>事業の継続状況 (A:継続する予定 B:継続しない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地利用、農村の産業創出に向けて事業提案し、今後他地区への事例となる活動としたい <p>協働による発展 (A:協働により発展できる B:協働の必要はない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の利活用による、産業おこし、地域おこし事業等に発展させたい

<p>制度の改善</p>	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村からの公募であれば良いのではないのでしょうか？ ・市の市民活動推進課で採択を受け→県に報告、協働を求める ・地元集落との関係調整など ・農地利用（転用審査等）に関する事前の助言 <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO活動の諸手続きが市に移管されてはおるが中身までしっかりと移管されていないのではないのでしょうか？ ・現場に参加し、NPO法人や住民の方々と情報交換することで、日々の業務のあり方にも参考となった。 ・普段接することのないNPO法人とのつながりができた
<p>協働の推進</p>	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>県がする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の参画を求めていく必要があると感じる ・企画実施にあたり、無一文では動けない。NPO法人側としては資金確保への懸念が常に あるため、助成情報の整理及び詳細な情報提供が必要と感じる

H22年度「地域社会雇用創出協働事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

<p>事業名</p>	<p>市民による持続可能な「子育て応援地域ポータルサイト」構築プロジェクト</p>
<p>実施団体</p>	<p>特定非営利活動法人おやこ劇場松江センター</p>
<p>県担当課</p>	<p>青少年家庭課少子化対策推進室</p>
<p>事業の成果</p>	<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てを支援する地域情報ポータルサイトの構築などにより、子育てをサポートする地域情報の一元化などを図る <p>事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てを支援するポータルサイトの構築 子育て支援団体・子育てサークルの情報発信スキルの向上 子育て情報発信ステーションの設置 地域全体で子育てすることの有用性を学ぶ講演会の開催 <p>目的の達成状況 【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul style="list-style-type: none"> サイトの制作が遅れたため、広報も大幅に遅れた サイトの製作が遅れ、内容の充実、広報が十分にできなかった <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て応援サイトの内容検討、情報収集のために、子育て当事者による運営委員会を設置した 内容検討のために、子育て当事者による運営委員会を設置した サイト名を公募することにより、サイト完成前の広報も兼ねることができた <p>反省点・改善点</p>
<p>協働の効果</p>	<p>合宿研修の効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を具体化したことで、進むべき方向がハッキリした ターゲット世代はPCではなくケータイユーザーだと認識した 目標の具体化、スケジュールを具体化することにより、共通認識をしっかりとつことができた アドバイスをいただき、より有効な事業になるよう検討することができた <p>中間振り返り研修の効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間の到達度を県と共有し、収支・行動の計画と目標を見直すことができた。労力少なく持続可能な仕組みへ 進行状況等を確認しあい、終了時までのスケジュールを再構築することができた

	<p>協働の実績と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 市町役場への協力依頼 ・ 子育てサークル当の情報提供、広報 <p>協働効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 市町の子育て支援担当課の協力が得やすかった。長期的な視野、次年度の事業につながった ・ 主な利用者である子育て家庭のニーズに沿った内容とすることができた ・ サイト名を公募、街頭で尋ねるなど、柔軟な発想で事業をすすめることができた <p>協働相手への要望事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協働で委託という形態がわかりにくいのか？ ・ よりよい事業にするため、より高い成果を上げるため指導ではなく、共に考え共に行動する意識を持ってくれるとよい ・ 印刷物など作成する前に、デザイン・内容等の相談が欲しかった（全てなかったわけではないが、ない事があった） <p>協働に関する反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ システム構築について、委託先のリサーチが足りなさすぎた ・ システム構築の面にももう少し介入したら良かった <p>市町村との協働 【A:市町村と協働した B:協働しなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報（カードの配布、ポスター提示、ステッカー） ・ 子育てサークル（サロン）へのチラシ配布、情報提供 ・ 掲載URLの情報提供 ・ チラシ等の配架など広報の協力
<p>事業の継続</p>	<p>事業成果の活用 【A:活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイトのコンテンツはでそろったし、支援者や市町の子育て担当課とも知り合えたので、これから何かにつけ連携しやすくなった ・ 室のHPを補完するものとして、少子化室のWebサイトにリンク貼付する <p>事業の継続状況 【A:継続する予定 B:継続しない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイトの充実西部への拡大（県からの委託） <p>協働による発展 【A:協働により発展できる B:協働の必要はない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノウハウを活かして、さらに利用しやすい充実した内容のサイトにしていきたい ・ ネットワーク、フットワークの良さを活かして広報活動に力をいれていきたい

<p>制度の改善</p>	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOの自立の必要がくり返し言われるが、この事業でNPOが収益を上げることは許されない（これをなんとかしないと）
<p>協働の推進</p>	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対等な関係を構築するために、人材の確保と持続可能な体力（資金）をつける <p>県がする必要があること</p>

H22年度「地域社会雇用創出協働事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

事業名	ほっとスペース「ゆきみへる」（青少年の居場所づくり）事業
実施団体	特定非営利活動法人緑と水の連絡会議
県担当課	県央保健所
事業の成果	<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年の居場所を整備し、地域活動への参加などを促すことにより、青少年一人一人の適性や能力の向上を図る <p>事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年が昼間に利用しやすいスペースを整備し、ボランティア等各種イベントの情報提供、誘い出し、声かけなどの実施 ・ 通信教育等在籍生に対する単位取得に向けたスケジュール管理、アドバイス・声かけ等 ・ 中高生、若者就業者が使用できる会員制自習室の開設 <p>目的の達成状況 【A:十分達成できた B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ある程度の利用者の定着が見られ、青少年の居場所となりつつある。 ・ 圏域のネットワークに参加し、他機関との連携をしている。 ・ 圏域の関係機関、特に大田市からは青少年の居場所として十分には認知されていない ・ 当初の目的を果たす社会資源であることは認知されてきており興味を持たれている人は増えてきており、利用者1人1人には非常に丁寧な地域との連携体制がとられている ・ 利用定着者には支援が可能であるが利用に至らない在宅の青少年はもっと多いと思われる <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学者へのアンケートによるニーズの調査 ・ 利用者の要望を反映した活動を導入 ・ 業務日誌、相談記録、朝礼などにより、複数スタッフで共通理解、情報共有、一貫した対応をした ・ 支援員の育成のために、県内の研修会等に積極的に参加した ・ 関係機関との連携のために、圏域のネットワークの企画会へ参加、個別訪問 ・ 保護者向け講演会や、関係機関や自治会むけ説明会等で地域の理解を求めた ・ 圏域の関係機関の集まるあらゆる場に周知の機会をもった ・ 圏域の思春期のこころの健康について検討する「思春期企画会」に参画してもらった ・ 地元自治体の今後子ども若者支援体制の検討のきっかけになるよう、情報提供や意見交換等を行った <p>反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画段階など、早期からの大田市との連携ができればよかった ・ 居場所スペースのレイアウトはさらに綿密なシュミレーションが必要であったと感じ、実情に合わせて可能な限り柔軟に対応した ・ 県とNPO法人との協働事業ではあったが、地元自治体との協力 ・ 連携体制について事業開始当初から確認してあれば良かった。担当者レベルでは相談、協力体制がとれていたが、地元自治体に特化した説明会等は計画しておらず、上層部に十分周知理解を求められていなかった

協働の効果

合宿研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・ 県との目標を改めて共有、具体化できた
- ・ その時点での懸念点と、その解決への取り組みを考えることができた
- ・ 協働事業のねらいや目的を具体化することができた

中間振り返り研修の効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・ 地域通貨券を使った利用者の変化について、意欲指標による可視化の案が出た
- ・ 研修よりも、研修の発表資料を作成するために協議をすることで、改めて課題を浮き彫りにして、解決へ向けた方策を考えることができた
- ・ 残された課題について検討できた
- ・ 事業終了後の事業継続について具体的に動くきっかけになった

協働の実績と内容

- ・ 月に1～2行なった検討会での個別のケース検討や、課題とその解決に向けた協議
- ・ 圏域のネットワークへ参加や関係機関との連携の促進
- ・ 地元の大田市との協働へ向けた働きかけ
- ・ 支援員育成のための研修会等の案内
- ・ 関係各所へのPR、説明会の開催や市町広報への掲載
- ・ 関係機関対象の思春期保健連絡会の開催（2回）
- ・ ゆきみーるの周知～保健所圏域内の関係機関へ広報紙の送付、各市町広報への記事掲載
- ・ 地元自治体への働きかけ

協働効果

【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】

- ・ 単独では圏域のネットワークに最初から参加することは難しかった
- ・ 複雑な背景を持つ利用者の見立てについて専門性の高い助言をもらうことができた
- ・ 様々な課題の解決へ向けて、豊富なノウハウから助言をもらうことができた
- ・ 他地域の研修会等の案内をしてもらうことができた
- ・ 協働先が県央保健所で顔の見える関係ができ、頻回に会議開催が可能であり、連携が図りやすかった
- ・ 行政では対応できないような、柔軟な支援体制がとれた。（例：夕方の開設時間が遅くまで設定できた。体験活動の実施など）
- ・ 青少年の所属（中学、高校など）や年齢、障がい等による行政担当課（縦割りの問題）が変わっても、継続して支援できる

協働相手への要望事項

- ・ 困難を抱える若者支援の大田市としての窓口を決めておいてほしかった

協働に関する反省点・改善点

- ・ 団体の中での支援員に対するスキルアップ・フォローアップ等の研修会の必要があった
- ・ もともと県央保健所管内の取り組みとして実施していた、思春期こころの健康づくりの取り組みの中で、居場所がない、総合的な相談や切れ目のない支援のための拠点がなかった課題があり、ゆきみーるは必要な社会資源となった。しかし、今後地域に根ざした社会資源としてさらに認知、活用してもらうにあたっては、圏域としての視点を重視していたため、もともと取り組みに消極的であった地元自治体への働きかけが十分ではなかった

	<p>市町村との協働 (A:市町村と協働した B:協働しなかった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者レベルでは、来所ケースの支援協力 ・圏域市町村への広報紙への周知広報掲載依頼、チラシ配布等周知依頼
事業の継続	<p>事業成果の活用 (A:活用される B:活用されない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域の居場所のない若者にとっての、年齢で区切らない支援拠点となり続ける ・他機関との連携を続け、専門的な支援の必要な利用者は適切な機関へつないでいく <p>事業の継続状況 (A:継続する予定 B:継続しない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年事業に特化、併せて、新しい公共の提案（施設の指定管理料や、助成） <p>協働による発展 (A:協働により発展できる B:協働の必要はない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の大田市や他の市町との連携により、小中学校や高校、適応指導教室との連携をし、圏域での認知度も上げていく ・運営協議会を設立し、多様な意見を取り込んでいく ・圏域（地元自治体）の青少年支援（困難を抱える子ども若者支援）拠点としての機能定着
制度の改善	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施地域の市町村は初めから参加することにしてしまう ・市職員に対してNPOについて、協働について、他県での状況を含め全国的な流れについて研修させる ・地元市町村にも事業説明を行い、申請書類にコメントと担当課名を求めると良い。理由は、協働事業終了後は市町村にとっても必要な事業または資源として認識され活用されなければならないから <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートの送付がもう少し早ければ、多くのスタッフからより多角的な意見を聞く機会が持てた ・研修は拘束時間が長い上に、県の担当部署と連携が取れているので、既に確認済の部分を重複することが多かった ・今回の協働事業については、圏域の現状や課題が明確であり、ピンポイントに必要な社会資源としての事業であった
協働の推進	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や地域に対してNPOを理解してもらえるように、地域住民の声を集約して情報発信をし、活動を見てもらい、成果を感じてもらう必要がある ・地域のあらゆる方面の現状や課題について関心を持たれ、行政の行っている事業や制度の隙間を埋めるような事業になると、行政の信頼性とNPO法人の柔軟性を発揮し、お互いに役割分担しながら連携して推進していくことができる

県がする必要があること

- ・市町村に対してある程度強制的に研修等の機会を持たせ、まずは営利と非営利の違いから伝えていく必要がある。また、協働は市町村の既得権益を侵すものではなく、高めあい補完し合うものだとの認識を伝えてほしい
- ・県の各機関の管轄業務の中で、現状や課題、何が不足しているか、何が加わればより県民にとってのメリットになるのかを常に明確にし、機会あるごとに伝えていくこと

H22年度「地域社会雇用創出協働事業」ふりかえり評価シート【共同評価用】

事業名	困難を抱える若者に対する多様な就労（働き方）創出事業
実施団体	特定非営利活動法人Y Cスタジオ
県担当課	雇用政策課
事業の成果	<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ・ギャラリーやカフェの運営、農業を通じ、中卒者や障がいのある方の勤労意欲の向上などを図る <p>事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップでの販売、カフェでのランチや弁当の調理や配達等、土作り、種まき、苗作り等の農作業といった就労を通じ、自信をなくした若者などへの精神的なサポート、自信回復を行う <p>目的の達成状況 【A:十分達成できた <input checked="" type="radio"/> B:概ね達成できた C:不十分だった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用創出もはかれたし職業意識の醸成もできた ・事業者（雇用主）として必要な経験をする事が出来た ・就職困難な若者の雇用創出ができ、職業意識の醸成もできた。 ・協働したNPO法人も、事業者（雇用主）として、求人申込やいろいろな雇用関係の手続き等、経験することができた <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の参加者に対する理解と特性に合わせた仕事の割り振り ・参加者の変化の可視化・指標の作成 ・雇用した方の変化が把握できる指標を作成した <p>反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR不足であり、もっと積極的に行えばよかった（利用者からの発信）
協働の効果	<p>合宿研修の効果 【A:十分効果があった <input checked="" type="radio"/> B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成目標の設定 ・雇用した方の変化が把握（可視化）できる指標が作成できた <p>中間振り返り研修の効果 【A:十分効果があった <input checked="" type="radio"/> B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度合いの確認ができた <p>協働の実績と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用した方の変化が把握できる指標が作成や目標の達成度合いの確認等、連携できた ・販路開拓やPRについてもっと役割分担が出来たのではないかと思います

	<p>協働効果 【A:十分効果があった B:概ね効果があった C:効果がなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労や生活に関する若者の抱える困難の実態把握の必要性を認識した ・県内において、就職困難な若者がどのくらいいるのか、実態を把握する必要性を感じた <p>協働相手への要望事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路開拓やPRに関するアドバイス ・PR活動の部分について、もっと県の協力を求めて欲しかった <p>協働に関する反省点・改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の就労実態について、問題点を整理して提案できたのではないかと ・PR活動について、もっと積極的に行えばよかった <p>市町村との協働 【A:市町村と協働した B:協働しなかった】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江市に若者の雇用に関して相談できる部署がなかった
事業の継続	<p>事業成果の活用 【A:活用される B:活用されない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の個性を生かした多様な働き方を創出するノウハウ ・個々の特性を活かす多様な働き方の創出方法 <p>事業の継続状況 【A:継続する予定 B:継続しない】</p> <p>協働による発展 【A:協働により発展できる B:協働の必要はない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労等に関する若者の抱える困難の実態把握
制度の改善	<p>市町村との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村にも協働相手になってもらいたい（松江市との連携を深める） ・協働する相手先として市町村も役割を担ってもらおう <p>良かった点と残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単年度で終わってしまう ・収益をあげることが困難 ・問題意識の共有ができた
協働の推進	<p>NPOがする必要があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOの側から、困難、苦勞している現状を県にもっと発信する必要 ・広くPR活動を行い、寄付等を求めていく

県がする必要があること

- もっとNPOの実情を知る必要がある。特に、人にかかわる事業で、効率性で評価すること自体が不可能か、あるいは支援対象者を逆に苦しめるような事業について、個人情報についてデリケートな配慮が必要な事業について支援対象者の置かれている状況に対して想像力を働かせること
- 公開の場での学習会、発表会では伝えきれない部分について、クローズドで守秘が確保された場での学びが必要
- NPO法人の実態を知る必要がある